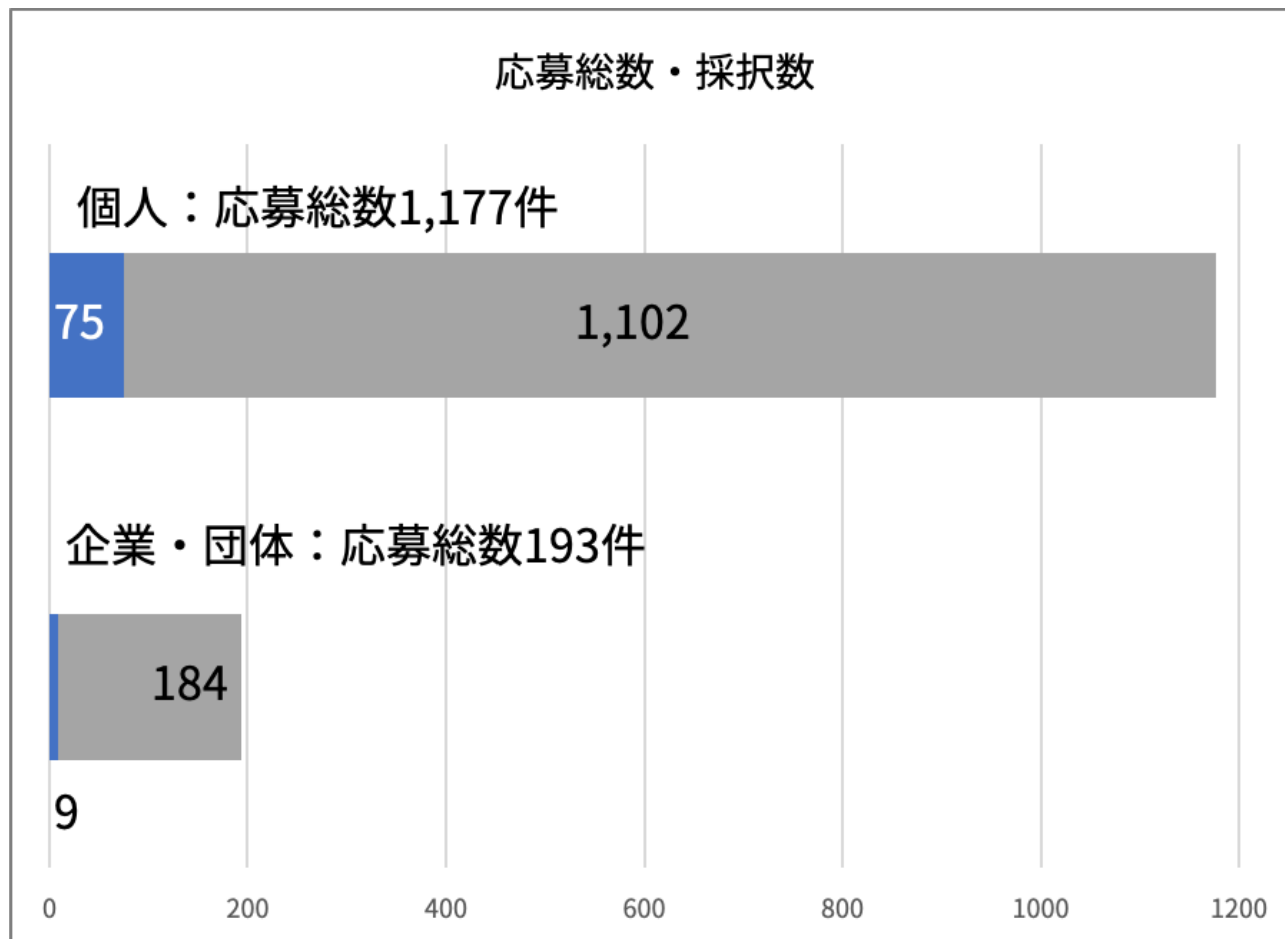


# 第一次助成報告

## 公募総数：1370件（採択率6%）

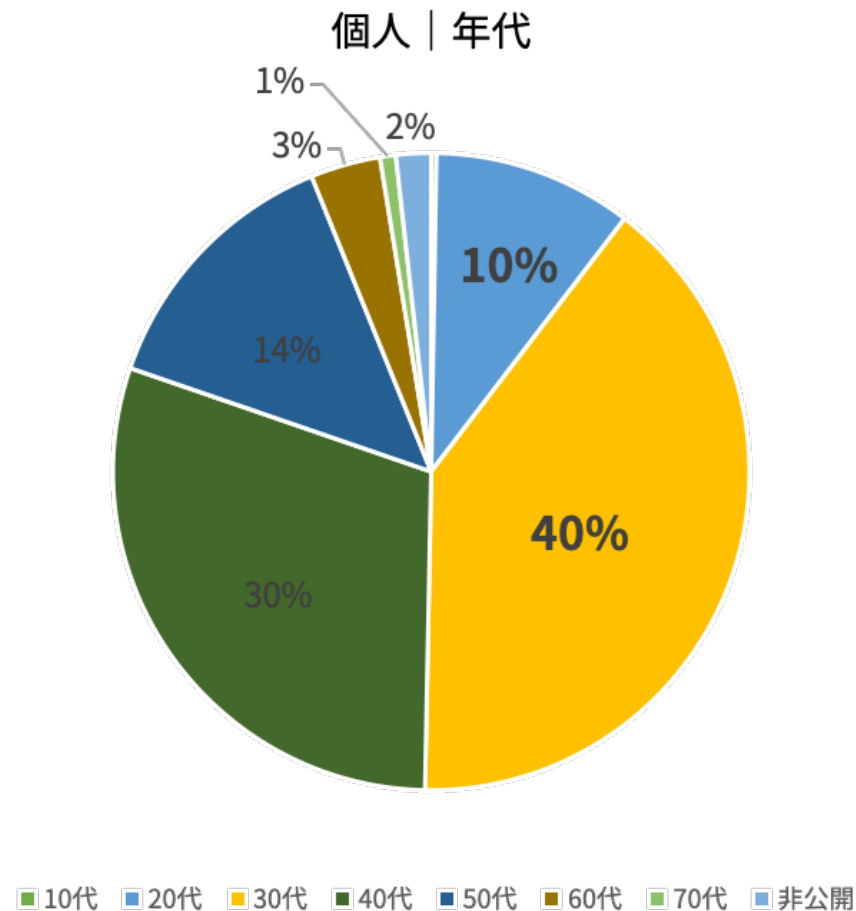
×10



# 助成報告：応募状況から見えてきたもの（1/4）

- 個人申請者の主な年齢層：20-30代が半数を占める

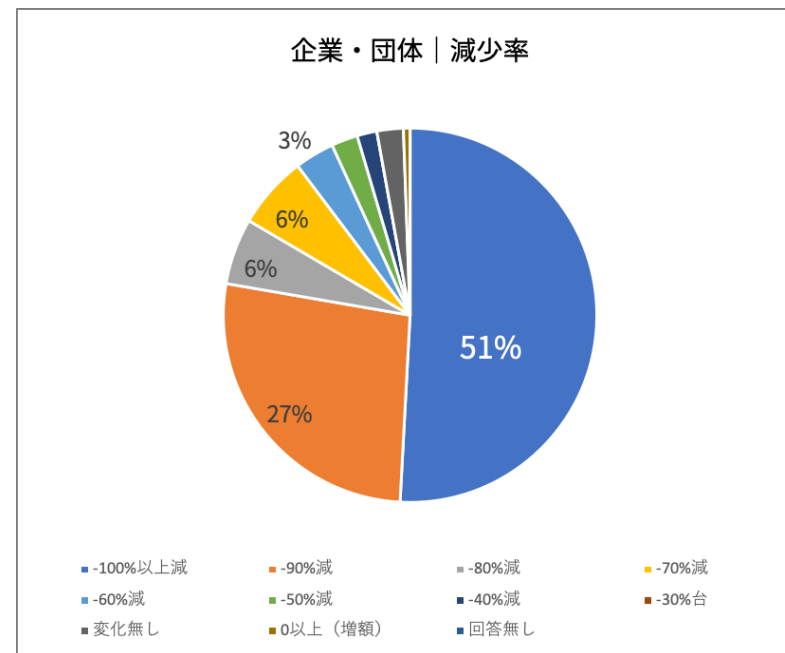
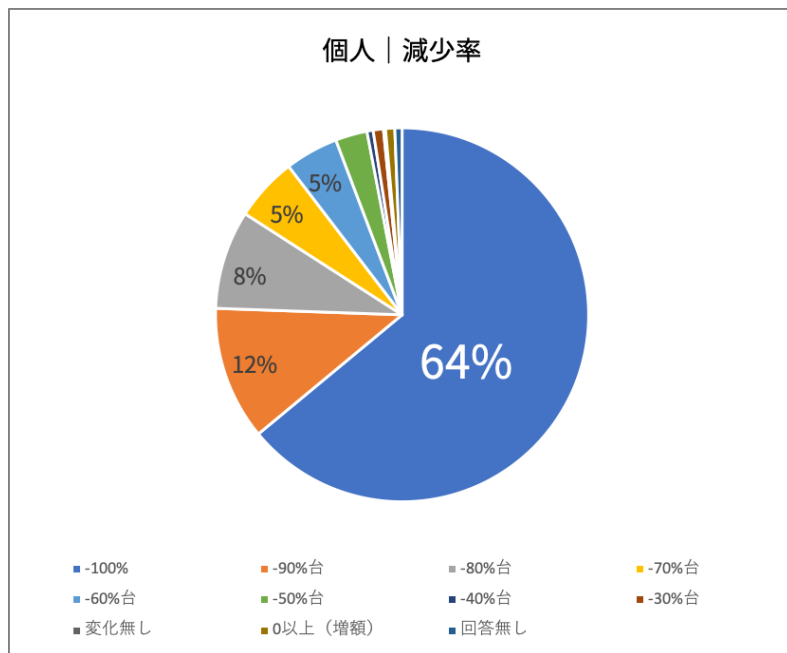
基金の名称通り、舞台芸術界の未来を支える多くの若手の方達から応募がありました。引き続き逼迫する若手層を支援していけたらと考えています。



# 助成報告：応募状況から見えてきたもの（2/4）

## • 無収入の率：個人64% / 団体51%

緊急事態宣言期間を含むおよそ3ヶ月の間、半数を超える方々が本業である舞台芸術から収入を得られない状況が続いていた事が分かります。現在は劇場の段階的再開、配信等で一部では活動復帰の動きも見られるようになっていきます。

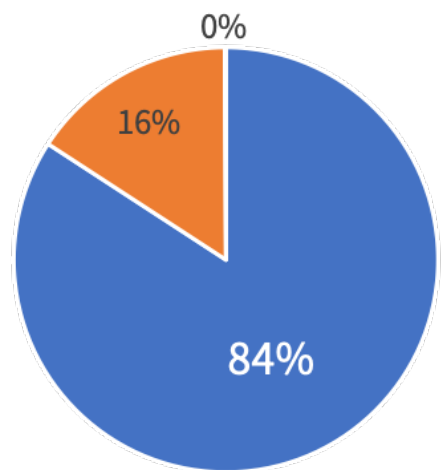


## 助成報告：応募状況から見えてきたもの（3/4）

- 給付金・助成金・貸付金の利用率：個人84%／団体74%

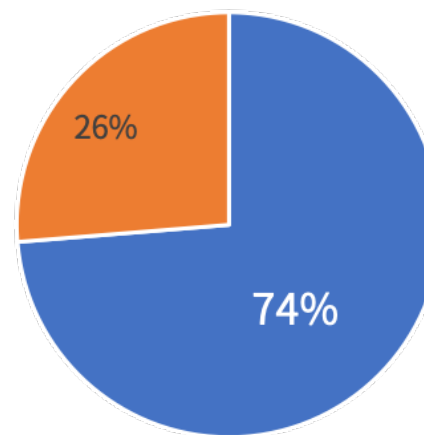
ほとんどの方が行政機関による制度を利用して自助努力されている事が伺えます。

個人 | 給付金・助成金・貸付金の利用率



■ある ■ない ■(空白)

企業・団体 | 給付金・助成金・貸付金の利用率



■ある ■なし

# 助成報告：応募状況から見えてきたもの（4/4）

---

## ●個人申請者の現在の収入源（複数回答）：

- \* 舞台芸術関連の仕事から現状収入を得ているのは回答者の33%
- \* オンライン配信やレッスン開催から収入を得ているのは、それぞれ回答者の38%と29%
- \* 一方で、回答者の27%は舞台と関わりのないアルバイトから収入を得ていました。  
中には私財を売却しているという回答もありました（7%）。

それぞれにご自身の置かれている状況から現状の打破に努めている事が伺えます。

## ●当助成金の利用用途：

- \* オンライン配信を可能にするための機材購入等が目立っていました（47%）
- \* 続いて人件費（24%）や固定費補填（13%）などが多かったです。

いずれも活動を継続し、次へ繋げるトライのための助成金利用である事が伺えます。

## ●今後の地域・社会貢献について（記述式）：

特に多かったのは、芸術鑑賞機会の少ない層・難しい層を対象にしたオンライン配信の実施、演劇を用いたコミュニケーション能力の向上を目指した児童や生徒向けプログラムの開催、地域との交流の場の創造、創作活動を通じた地域の魅力の掘り起こしやマイノリティ層の活躍の後押しなどでした。

社会とのリンクを一つのテーマとしている当基金としては、申請者の方々の今後の活動に注目していきたいです。